

## はじめに

LSTR 3Mix-MP療法の臨床応用に取り組んで32年、辿り着いた原理がある。

「歯科領域疾患に対するLSTR 3Mix-MP療法は、無菌化することで病巣をできるだけ保存し、生体の防御機能や修復機能を賦活化し、修復・再生を図る治療法である」

既存の歯科治療は、おもに「除去して、(人工物で)埋める」であったが、LSTR 3Mix-MP療法でその概念が大きく変わりつつある。LSTR 3Mix-MP療法は、単に「3Mix-MPという抗菌薬を用いた治療」ではなく、「歯科治療の新しい概念による総合的な歯科治療の術式であり、歯科医療のさらなる発展の原理とならねばならない。

## 本書の使い方

必ず次頁の「大事な注意事項」を熟読し、目的に従って「目次」を参照したうえで各項目に進んでいただきたい。

記載にあたっては、どの項目から読み始めても、その項目内で理解が進むような記述を心がけたので、同じ事柄、説明が繰り返されている箇所がある。しかし、それらはそれぞれの項目で必要なことであり、繰り返されれば繰り返されるほど重要な留意点であることを理解されたい。より詳細な説明は参照すべき箇所を記載した。

関心のある項目を読み進めるうちに、「なぜかな」と思ったら、詳しく説明している項目を探して、さらに深く理解していただきたい。

### ① LSTR 3Mix-MP療法未経験者の場合

第1章でLSTR 3Mix-MP療法の概略を知り、そのうえで、第2章「LSTR 3Mix-MP療法の基礎」に進み、LSTR 3Mix-MP療法に必要な治療手技をマスターし、第3章「LSTR 3Mix-MP療法の臨床術式」から該当する患者の症状ごとの実際の治療術式を参照して治療を進めていただきたい。

LSTR 3Mix-MP療法の良好な治療効果を経験する最初の症例としては、第3章に示した「既根充歯の再発症例」が最適かもしれない。貼薬(もちろん、+密閉)だけで治っていく効果を実感してほしい。

### ② すでにLSTR 3Mix-MP療法の経験が多少ある場合

本療法の厳密な再現ができるよう、第1章、第2章による再確認をお勧めする。いままで経験した症例で、本書で示されている臨床成績と同様の効果が得られていない場合

には、無意識にどこかで本療法と異なる手技を行っている場合や、重大な本療法からの乖離の可能性がある。また、自分勝手な省略や改変を行っているのかもしれない。臨床成績の向上のために本療法の手技の再確認をしていただきたい。同時に、第3章の症例ごとの個別対応でも確認を進めていただきたい。

### ③ すでにLSTR 3Mix-MP療法の経験を

#### 長年重ねている場合

症例を重ねて3Mix-MP療法の良好な効果を実感している方々は、臨床経過の思わしくない症例を取り上げ、その原因を探って改善することで、自身の3Mix-MP療法をさらに進歩・進展させていただきたい。とくに留意が必要なのが、操作が容易でない歯頸部高縁の密封で、ここでの漏洩が症状再発の最大の原因となっている。辺縁漏洩のないことを辺縁漏洩検査で確認していただきたい。患者に充填した歯冠修復物の「自分の技術による充填物の正確さ」、言い換えれば、辺縁漏洩のないことの確認を繰り返すことで、臨床成績が格段に高まると思われる。

残りは「咬合」と「免疫」の項目に詳述した。

さらに、もう1つ大事なことは「待つ」ということである。3Mix-MP療法の最終ゴールは病巣組織の修復であり、主訴である自覚症状が治まってからも、無菌化された病巣では時間をかけて修復が進行する。その修復の足取りは直線的に治っていくもの、急速に加速度的に治っていくもの、あるいは少しジグザグに経過して治っていくものがある。

3Mix-MP療法に万全を尽くして「待つ」。上級者として、LSTR 3Mix-MP療法での対応を拡大していただきたい。